

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	三枝祐紀	学校名	大町市立八坂小中学校(前期課程)
実施学年	4年	教科	社会(総合的な学習の時間との教科横断的関連)
单元名	「未来に向けて 私たち人間に欠かせない水とその循環」		

《学びを深めたいポイント》

現学習指導要領では、児童生徒一人一人が持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。

今担任している児童(現4年)は、3年生のときから担任を務めさせていただき、現在2年目であるが、上記のことを念頭に置き、社会科と総合的な学習の時間の関連を図りながら、学習を進めてきた。具体的には、SDGsについて知る学習を3年生のときに行い、2年次になる今年度は、知るだけではなく、子どもたち自身が、私たち今の大人よりも先の未来に生きていくのに大切にしたいことは何か、できることは何かをさらに考えられるように、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる。

本実践は、「未来に向けて学ぶ 私たち人間が使う水とその循環」と題し、学習を進めてきた。

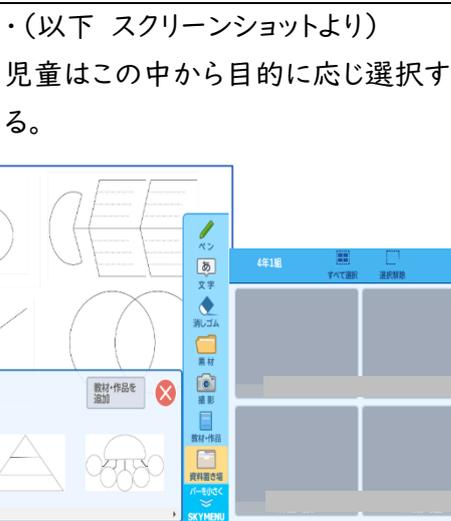
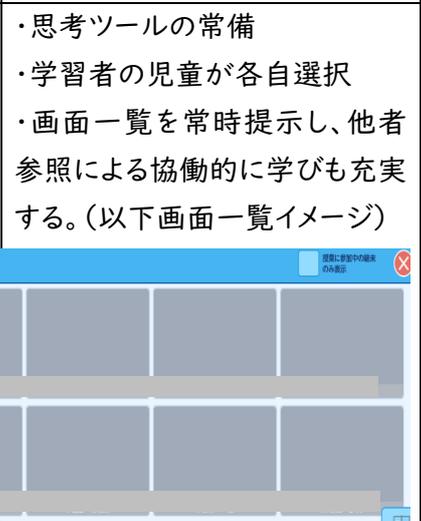
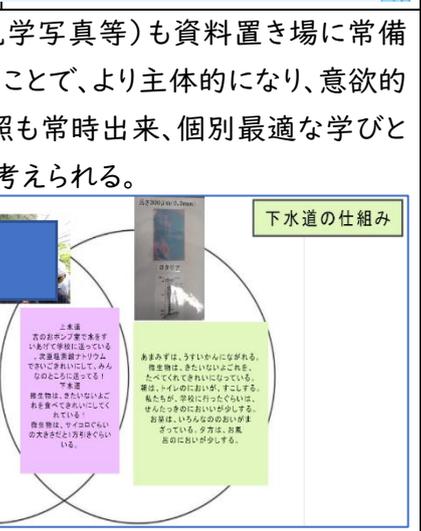
子どもたちが、一步一步、持続可能な社会の創り手として育っていけるよう、学習問題「(水のことについて学んできたみなさんは)水博士として、この先の未来にもきれいな水があるよう、伝えられることは何か」を設定し、学習者である子ども自身が「水博士」として学んできたことに自信をもち、学んできた知識を活用し、未来に向けて考えを表現できる(思考・判断・表現力)ようになることを学びを深めたいポイントとし、本実践に取り組んだ。

《SKYMENU 活用のポイント》

OSKYMENUは授業を行う教師の活用の工夫次第で、さまざまな可能性があると考えています。

- (1) 導入時は、まだ各児童は端末を開かず、授業者(私)が提示するスライド(発表ノート)を電子黒板画面に提示し、視線や意識がそこに集中できるよう心がけています。本時は、これまでの学習や社会見学を通じて、「水(自然の水循環・上水道・下水道)のことを私たちはいっぱい学んでわかってきたという達成感や自信」を感じてほしかったので、最初のページに「(みんなは)水博士!」と示したイラストを提示するようにしました。
- (2) その後、学習問題「水博士として、この先の未来にもきれいな水があるよう、伝えられることは何か」を設定、画面提示しました。これも(1)同様、本時のねらい、学習問題に意識を集中させる効果があるととらえています。その後、提示データを各自追究用として、配付しました。
- (3) 子どもたちが思考を可視化、深めながら判断・表現していくのに、思考ツールはとても有効だと考えております。私の現在の授業改善の取り組みの一つとして、思考ツールを学ぶ子どもたちがいつでも使えるように常備しておく工夫を行っています。本実践では、発表ノートの資料置き場に何種類か思考ツールを常備しておき、子どもたち自身が自分の考えを表現する目的に応じて選択できるようにしました。
- (4) 追究の途中では、児童が常時必要感があるとき(困っているとき・参考にしたいとき)や協働的に学ぼうとしたとき(人の考えややり方のいいところを取り入れようとするとき等)に他者参照できるよう、画面一覧を電子黒板で表示し見られるようにしています。グループワークもよいですが、電子黒板で写すことで、全体共有が容易で、授業者もすぐ個別にフィードバックしたり、全体に広げたりすることが簡単にできます。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
<p>導入</p>	<p>○既習事項(社会見学等)のふりかえりをデータの蓄積やしおりに書き込んだことをもとに行う。</p> <p>○本時使用するSKYMENUの発表ノートを授業者が一斉提示し、状況の設定と学習問題の確認を行う。</p> <p>○学習用データが配られ、追究が始まる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項(社会見学等のふりかえり) データの蓄積から ・学習の達成感や意欲の向上を意図し「水博士」の状況設定 ・学習問題の設定・明示
<p>展開</p>	<p>○児童は自分の考えを表現する目的に応じ、思考ツールを選択し、自分の考えをまとめる。</p>	<p>・(以下 スクリーンショットより) 児童はこの中から目的に応じ選択する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールの常備 ・学習者の児童が各自選択 ・画面一覧を常時提示し、他者参照による協働的に学びも充実する。(以下画面一覧イメージ) 
<p>まとめ</p>	<p>子どもたちが学習問題に向き合い、自分の考えを表現する。</p>	<p>思考ツールも、目的に応じた資料(見学写真等)も資料置き場に常備し、子どもたちが選択できるようにすることで、より主体的になり、意欲的に自分の考えを表現できる。他者参照も常時出来、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実すると考えられる。</p>	

《実践を振り返って》

- ・子ども達が「持続可能な社会の創り手」として一步一步成長していけるよう、私たち人間にとって欠かせない水とその循環について単元を構想し、学びが充実した。
- ・SKYMENUの活用について、導入時には、配付用発表ノートに提示用を用意しておくことで、導入がスムーズになり、事象や学習問題に意識を集中させて学習に臨むことができた。思考ツールの常備、日常的活用は児童が思考力・判断力・表現力を伸ばすのにとっても有効だと感じている。今後、さらに他の機能の活用も充実させ、さらに主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み続けたい。